

まほろん

通信

Shirakawa since 2001



- ◆まほろん2026年度スケジュール
- ◆活動報告 実技講座「縄文土器づくり」
- ◆学芸員のひとりごと「クマと縄文人と私」
- ◆まほろん収蔵資料紹介
「八景腰巻遺跡出土縄文土器 かおとからだ」

写真：火焚中の野外展示「縄文時代の家」をのぞき込み、目を輝かせる子どもたち。まほろんは、発見のときめきに出会える場所です。





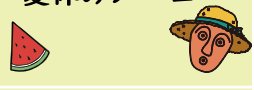


公式 Instagram



公式 YouTube

まほろん2026年度スケジュール

2026年度の行事をご案内します。事前申込が必要な場合がありますので詳しくはお問合せいただくか当館ホームページをご確認ください。

	イベント・特別体験	実技講座・まほろん森の塾	講演会等	企画展
4月		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 4月以降 まほろん森の塾 募集 ◎ 随時受付 web 配信 おうちでできる土器づくり 	<p>まほろん森の塾とは? 小学4年生~中学生を対象とした 通年型の体験学習です。 4月以降に募集し、6月から12月 の間に5回活動する予定です。</p>	<p>4月4日(土) ~5月10日(日) ふくしまの縄文・弥生時代 - 只見川流域の遺跡 - (後期展)</p>
5月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 5月1日(金)~ 5月6日(水・振休) <p>まほろん 3rd Anniversary 特別体験 9:30~16:00</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ①受付 ②焼成のためのお持ち込み ③お引き取り の計3回ご来館いただく必要があります。 		
6月		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 第1回まほろん森の塾 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 6月13日(土) 第1回館長講演会 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 7月18日(土) ・19日(日) <p>まほろん大感謝デー</p> <p>開館25周年記念イベント! この日だけの特別な体験が いっぱい!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 第2回まほろん森の塾 ◎ 7月26日(日) 土偶づくり <p>企画展 ふくしまのかお(仮) 関連講座</p>  <p>昨年度の作品</p>		<p>7月18日(土) ~9月27日(日) 開館25周年記念企画展 ふくしまのかお(仮)</p> <p>Maboron 25th Anniversary 25</p> 
8月	<p>7月~8月 夏休みメニュー</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 8月9日(日) はにわづくり <p>企画展 ふくしまのかお(仮) 関連講座</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 8月1日(土) 企画展 ふくしまのかお(仮) 関連講演会1 ◎ 8月29日(土) 第2回館長講演会 	
9月		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 第3回まほろん森の塾  <p>昨年度の作品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 9月19日(土) 企画展 ふくしまのかお(仮) 関連講演会2 	
10月		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 10月3日(土) 編み組み体験 ◎ 10月17日(土) 大堀相馬焼体験① 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 10月10日(土) 第3回館長講演会 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 10月31日(土) ・11月1日(日) <p>まほろん秋まつり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 第4回まほろん森の塾 ◎ 11月7日(土) 大堀相馬焼体験②  <p>昨年度の作品</p>		
12月	<p>体験活動室の ご案内</p> <p>大人気の勾玉づくりや火おこしの他、月替わりで体験メニューをご用意しています。最新の情報は館内掲示やホームページをご確認ください。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 第5回まほろん森の塾 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 12月5日(土) 第4回館長講演会 ◎ 12月12日(土) 企画展 まほろんの優品I(仮) 関連講演会1 	<p>12月5日(土) ~3月22日(月・祝) 開館25周年記念企画展 まほろんの優品I(仮)</p> <p>Maboron 25th Anniversary 25</p> 
1月		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 1月16日(土)~20日(水) 土器づくり(製作)  <p>昨年度の作品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 1月23日(土) 企画展 まほろんの優品I(仮) 関連講演会2 	
2月			<ul style="list-style-type: none"> ◎ 2月6日(土) 第5回館長講演会 ◎ 2月20日(土) 企画展 まほろんの優品I(仮) 関連講演会3 	
3月		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 3月14日(日) 土器づくり(焼成) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 3月7日(日) 企画展 まほろんの優品I(仮) 関連講演会4 	<p>まほろんの優品II(仮) 4月17日(土) ~6月13日(日)</p>



活動報告
令和7年度実技講座

縄文土器づくり



観察タイム。約5,000年の時を超えて土器の製作者と対話できることが、土器づくりの醍醐味です。



当講座は、令和8年1月31日・2月1日に土器の形をつくる「成形」と文様を施す「施文」を行い、2月3日～2月6日にはミガキや調整作業を行いました。

参加者のみなさんには、まほろんに収蔵されている土器7点の中から、お手本とする土器を選んでいただきました。本物の土器を前に、みなさん興味津々！どの土器をつくるか、そして自分に作れそうかをじっくり考えながら選ばれていました。

選んだあとは、いよいよ観察です。土器をつくった縄文人と対話するかのよう、丁寧に観察することが重要です。土器の特徴、形や厚み、文様の入り方までしっかりチェックしました。

成形では、ひも状にした粘土を積み上げながら形をつくっていきます。想像以上に難しい作業に苦戦する場面も見られましたが担当者によるレクチャーにうなずきながら真剣に取り組んでいました。

施文の工程では、選んだ土器にはどのような文様が施されているのか。本物の土器と同じ縄目文様をつけるにはどうすればよいのか。この線を引くにはどの道具を使うのか。縄文土器づくりの奥深さを実感しながら、道具を自ら厳選し、本物の土器と自分の作品を見比べつつ、慎重に文様をつけていきました。

難しさを感じながらも、みなさん真面目に、そして何より楽しみながら土器をつくり上げました。完成時には大きな達成感に包まれ、笑顔があふれていました。土器の焼きあがりから楽しみです。

土器づくり達人級の職員によるレクチャー！達人ならではの貴重な話に参加者の方々は聞き入っていました。



均等な太さの粘土ひもにするのが美しい土器にするコツです！



乾燥中の土器。じっくりしっかり乾燥させてから焼成します。



おしらせ

現在、実技講座『おうちできる土器づくり』の参加者募集中です。まほろんでキットを購入し、ご自宅で土器をつくり上げて、まほろんで焼成を行います。詳しくは当館ホームページをご覧ください！



作品例



「クマと縄文人と私」

まほろん 第八回
学芸員の文
ひとりごと 河西久子
(学芸員)



昨年の中、改めてまほろんを見渡してみると、『クマ』の姿が多いことに気が付いた。常設展示室に展示されているクマの毛皮。その鋭い爪を、私はいつも「こんなのを襲われたらひとたまりもありませんよ」と来館者を怖がらせる口調で紹介している。勾玉づくりでは、勾玉のはじまりは動物の牙に穴をあけた「牙玉」だったのでないかと、クマの犬歯を例に話している。収蔵庫には西会津町の塩喰岩陰遺跡から出土した縄文時代のクマの骨もある。

★クイズの答えは…15回でした！

これまで私は、縄文人がクマを倒していたことを、ごく自然な事実のように語ってきた。しかし、クマの恐怖を身近に感じた今、改めて思う。鉄砲もない時代に、縄文人はいったいどのようにしてクマを捕らえていたのかと。

江戸時代のマタギ(猟師)の記録によると、射程距離が短いなどの欠点がある鉄砲(火縄銃)よりも、ヤリが多く使われていたそうだ。冬眠中のクマをヤリで突いたり、秋には通り道に罠を仕掛けたりと、季節に応じてさまざまな方法で狩猟していたという。アイヌの人々は、トリカブトの毒を塗った矢じりを用いてクマを狩っていたそうだ。縄文人もそのようなことをしていたのだろうか。そんな風に思いを巡らせながら、今日も私はクマに出会わないよう、スタコラサッサーノサート、足早に帰る。

クイズです！この記事の中で、『クマ』という言葉は、何回でてくるでしょうか？ 答えは、この記事の最後にあるよ！



かおとからだ

はつけいこしまき
八景腰巻遺跡（福島市）出土の縄文土器

文：伊藤 冴恵（学芸員）



まるっとしたタルのようなシルエットに、口縁部から1か所だけひょっこり飛び出た把手と、その左右に立体的な渦巻き文様を持つ土器です。胴部表面には全体に縄文が施され、上方向に伸びる渦巻き文が描かれた、縄文時代中期中葉（約4,900年前）の深鉢です。高さ16.0cm、口径は11.4cmで、大きさは両手に少し余るくらいでしょうか。この土器は、福島市の八景腰巻遺跡で出土しました。東北自動車道の建設に伴い、昭和47年に発掘調査が行われた縄文時代中期の集落跡です。

ところで、この土器の把手と文様ですが、みなさんは何に見えますか？把手の正面から見てみます。丸みのある把手には左右に大きな円窓と上下に渦巻き状のくぼみがあり、把手の下には沈線が集中しています。これはいったい何の形をつくったのでしょうか。木の実？動物？実は、この部分は顔や体を表現しているのではないかと、いう考えもあるのです。



縄文時代における人間の顔や体を表すものといえば土偶が思い浮かぶかと思います。縄文時代中期頃の土偶は、より立体的になる、顔や装飾のバリエーションが豊かになる

などの変化が表れてきますが、この時期には土偶以外にも人体の表現と考えられる土器などが見つかるようになってきました。この土器もそのひとつだと考えながら見てみましょう。一番大きな把手を人の顔に見立ててみると、その下の特徴的な渦巻き文様が人の体の表現に見えてきませんか？さらに、把手の反対側から土器を見てみると、正面の線に対応するように線が描かれています。もしかして、背中を表しているのかもしれませんが。つまりこの土器は、土器全体で顔を外側に向けた人体を表すように装飾されていると考えることができるのです。



さて、言われてみれば確かに見えるかも…と思うでしょうか。そうは見えない…と思うでしょうか。どんな表情をした、どんな様子の人に見えるでしょうか？

この土器は令和8年度企画展「ふくしまのかお（仮）」で展示する予定です。昔の人々が何を考えて作ったのか、実際に土器を見ながら皆さんにも考えていただきたいと思っています。どうぞ、お楽しみに！

まほろん令和8年度企画展

ふくしまのかお

7月18日（土）～9月27日（日）

福島県内から見つかった土偶や埴輪など、顔の表現のある出土品がまほろんに大集合！

多彩な表情の「ふくしまのかお」、昔の人はどのような意味を込めてつくったのでしょうか？

編集後記

春の陽気が心地よい時期になってきました。まほろんのあちこちで花が咲き、見上げると高く木の上に、足元に視線を下ろしても様々な種類の花が顔を出しています。この機会に足を止めて見てみると、新たな発見があるかもしれませんね。

まほろん
通信
vol. 99
令和8年4月8日発行

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日 月曜日（5/4、7/20を除く）、4/30、5/7、7/21
入館料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）

まほろん
福島県文化財センター ● 白河館
〒961-0835
福島県白河市白坂一里段 86
☎ 0248-21-0700
Fax 0248-21-1075
ホームページ [まほろん](#) 検索



HP MAP